

12 透析室における新型コロナウイルス（COVID-19）

感染症患者発生：経緯と対応

佐久市立国保浅間総合病院透析室 看護部¹⁾ 臨床工学技士²⁾ 内科医師³⁾

菊地裕美子¹⁾ 鬼久保郁子¹⁾ 掛川奈美¹⁾ 横田れい奈¹⁾ 小林穂波¹⁾ 上山明日香¹⁾ 杉田千裕¹⁾
高橋修二²⁾ 田島翼²⁾ 小須田真也²⁾ 飯塚雅人²⁾ 依田武憲²⁾ 小宮山智之²⁾ 横田大将²⁾ 福地聡³⁾

【背景】

日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染対策合同委員会委員長の菊地勘氏（下落合クリニック理事長・院長）は8月21日、横浜市で開かれた第63回日本腎臓学会学術総会の特別シンポジウムで講演した。これまでの新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染透析患者の背景や予後などを分析し、「一般の人に比べ透析患者の入院期間は長く、致死率も約6倍高かった」とのデータを示した。

2020年12月当院でCOVID-19集団感染が発生した。当院通院中の透析患者が感染した経緯と対応、その時のスタッフの思いも含めて振り返る。

【倫理的配慮】

佐久市立国保浅間総合病院臨床研究委員会の承諾を得た。

【透析室概要】

透析患者 58名 平均年齢 68歳 男女比 2:1
透析日（月・水・金）（火・木・金）午前・午後
ベッド数 20床
常勤医師 1名・非常勤医師 3名
看護師 8名・臨床工学技士 7名・看護補助者 1名

【症例及び経緯】

78歳男性 糖尿病成腎症・認知症

2019年4月透析治療開始

2020年12月5日誤嚥性肺炎にて入院

12月22日 COVID-19 院内ランブ (-)

12月24日 院外検査機関にて PCR (+)

問い合わせ先：菊地裕美子 〒385-8558

佐久市岩村田 1862-1 TEL (0867-67-2295)

当院 COVID-19 病棟にて1回透析実施 翌日感染指定病院へ転院

保健所の指示にて患者（58名）スタッフ（16名）全員に2回のPCR検査実施（翌日・1週間後）結果は2回ともに全員陰性を確認

感染症患者発生当日よりスタッフ間でカンファレンスを行い感染対策を検討した。

検討内容はホワイトボードに記載情報共有した。

表1 感染対策として変更した内容

発生前	発生後
ベッドシート 1回/週 交換	患者ごとに毎回交換
包布 1回/週交換	患者持参のタオルケットを掛け布団の下に敷く
ベッドサイドの環境整備は1回/週	患者退室後、患者が触れるところはアルコール噴霧（手すり・テレビ・血圧計・カーテンなど）
体温は透析室待ち合い室で共有の体温計で自己測定	入室時スタッフが検温、健康チェック表で流行地域の人の接触歴の確認
待合室・透析室の換気はしていない	待合室の窓の開放 午前・午後の入れ替え時間に15分換気
アルコールジェルは患者のテーブルに設置	患者・家族・送迎業者に透析室入り口でアルコールでの手指消毒 スタッフはアルコールジェルを携帯

【対象】

透析室看護師 8 名・臨床工学技士 7 名・看護補助者 1 名 計 16 名

患者とその家族の感染事例を含む

【方法】

透析患者 1 名から COVID-19 感染症が発生した年末年始のスタッフの思いについて、アンケート調査を実施した。

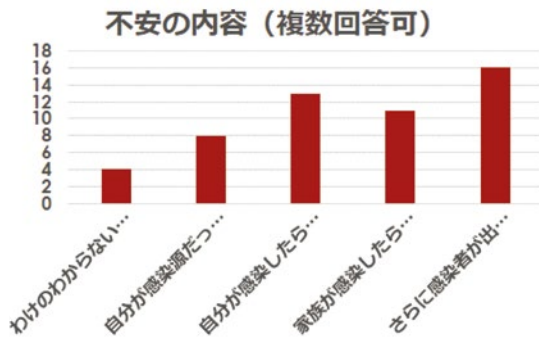
(7 か月後の 2021 年 7 月に実施)

【結果】

回答率 100%

1、COVID-19 感染症が発生した時、あなたは不安を感じましたか？

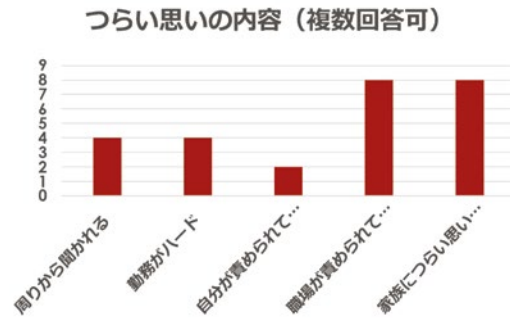
大変感じた 94% 少し感じた 6%



- ・年末年始でスタッフ不足・濃厚接触者の出勤停止で休日出勤の中、透析をきちんと回せるのかという不安があった。
- ・患者に説明してよいのか？病院としてどう対応していくのか？病院管理者から末端まで情報伝達のスピード感がなく、どうしていくのか不安だった。

2、COVID-19 感染症が発生した時、あなたはつらい思いをしましたか？

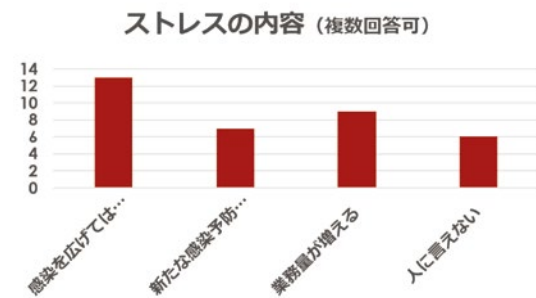
大変した 50% 少しした 31% あまりしなかった 19%



- ・当時は感染する人がいけないというような空気があって、浅間病院というだけで、そういうような目で見られているような気持ちになった
- ・他の部署とは違い業務が継続している透析室へ病院側から指示がないことへのストレス

3、COVID-19 感染症が発生した時、あなたはストレスをかんじましたか？

大変感じた 75% 少し感じた 25%

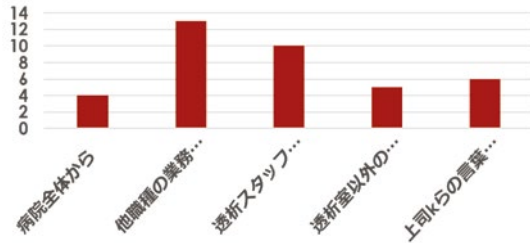


- ・感染者の治療を行うストレス
- ・PCR 検査の結果が出るまでのストレス
- ・新たな感染者が出たらどうしようというストレス
- ・患者さんやご家族、自分の家族や周りの人に不安や心配をさせてしまう。職員としての自分の行動などのストレス
- ・状況がわからない中でのストレス
- ・家族を感染させない、家に持ち帰らないようにするストレス
- ・いつまで続くのかというストレス

4、COVID-19 感染症が発生した時、他からのサポートがあったと感じましたか？

大変感じた 56% 少し感じた 38% あまり感じなかった 6%

サポート内容 (複数回答可)



- ・手術室・健康管理科・薬剤科など他部門からのサポートはとても助かった。
- ・透析医師、それ以外の医師からのサポート。
- ・感染や本部からのアドバイスやラウンドがあまりなく現場で感染対策など検討・実施した。
- ・透析室の医師・看護師・臨床工学技士は団結して感染対策に取り組めた。
- ・感染対策で良いと思われることは全スタッフで意見を出し合い、良い方向に進んで出来た。
- ・透析スタッフ間で声をかけ合いながら頑張れた。
- ・家族や周りの人から励ましの言葉は嬉しかった。

【考察】

透析施設から感染症患者が発生した場合でも透析施設という性質上閉院はできず、通常通りの維持透析を行わなければならない。今回感染症患者が発生し全てのスタッフ・患者にPCR検査を実施した。結果陰性ではあったが、感染を拡大させないために感染対策を検討・変更し、業務量も増えた。患者・家族への説明や指導を強化した。また発熱患者の対応・PCR検査・個室対応などにより、通常業務を行うことが困難になった。また、世間からの偏見と差別を少なからず受けた事は、職員の精神的ストレスの一因になった。

今回透析患者が COVID-19 感染したが、透析室でクラスターを発生させなかったことかは大事であり、今後の示唆になるとかんがえる。すなわち、

*病院・部署全体で一丸となり感染拡大防止に取り組むことが重要である。

*感染症対策本部からの情報はタイムリーにスタッフへ伝え、情報共有することが大切である。

*スタッフの意見や思いを聞き、精神的な支援と体調に応じたシフト調整が必要である。

*現在行っている感染対策は、最新のエビデンスを確認しながら、継続して実践することが感染防止につながる。

*透析患者は免疫能が低いため、患者・家族への指導をとくに強化することが重要である。

*透析治療という特殊な環境の中で、他病院から感染対策に関する情報を得る必要がある。

*透析室で複数の発熱者または擬陽性者が発生した場合のベッド管理が課題である。

【引用文献】

- 1) 臨床ニュース

www.m3.com >

【参考文献】

- 1) 海津嘉毅. 透析患者における新型コロナウイルス (COVID-19) 感染例と当院での対応
- 2) 新型コロナウイルス感染症に対する透析室での対応について (第5報)
http://www.touseki-ikai.or.jp/html/03_info/doc/20201008_action_for_covid19_v5.pdf